

# 桑名文化協

令和3年3月15日

第49号

桑名市文化協会  
桑名市中央町2丁目37  
TEL 24-1361  
http://bunkyo-kuwana.jp

## 「桑名文協」に寄せて

桑名市長 伊藤 徳宇



「桑名文協」第49号発行に寄せて  
ご挨拶申し

上げます。貴協会には設立以来、市内で活動する文化団体や個人会員への支援に加え、市民芸術文化祭、新春六華苑祭等の開催を通じて、桑名市の芸術文化振興に多大なるご貢献をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

先般の桑名市長選では、多くの市民の皆様からご支援をいただき、引き続き市長を務めさせていただきますこととなりました。これまでの2期8年で皆様とともに培ってきた成果をより一層実りあるものにするよう努めてまいります。

さて、昨年より新型コロナウイルスの影響で、多くの事業や活動が中止、自粛となり、新しい活動スタイルへの対応が迫られ、貴会

におかれましては大変なご苦勞をされていることと思ひます。

収束の糸口が見えず不安に包まれる世の中にあつて、芸術文化が人々の心に果たす役割の大きさを改めて感じております。健康や経済活動を支えるのは強い思いや心の力です。美しいものに憧れ、想像し創造する喜びと、そこから作り出された作品が人々に与える感動は社会全体を豊かにするかけがえない力で、決して失くしてはならないものだと思ひます。活動が難しい中にあつても皆様が芸術文化への情熱を繋ぎ、この事態を力強く乗り越えていかれますことを心より願っております。

今後とも、桑名市の文化振興の推進力として皆様のお力添えをいただきまますようお願い申し上げます。

結びになります。貴協会のますますのご発展と会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念申し上げます。



あまびえ  
厚生労働省hpより  
STOP感染拡大

## 乗り越えよう”コロナ“ 今できることから始めよう

桑名市文化協会

副会長(広報担当) 丹羽宗俊

(茶華香道部門 茶道裏千家)

令和三年元日のニュースは、コロナ感染者数が、過去最多であったと伝えました。「今年もまだコロナは続くのか」と暗い気持ちで外に出たら、雲間から旭日が昇ってきました。少し気分が晴れました。

去年は、全世界に広がったコロナのため、私事ですが、三月・四月・五月とお茶の稽古を休んで、体調をくずしてしまいました。新しい稽古の工夫をしながら六月から稽古を再開し、元氣を取り戻しました。

社中のミセスNは、イギリスに在住で、一年に何回か日本へ稽古に來ています。去年は一月末に來て、三月八日、日本から出国できるギリギリの日に、イギリスに飛びました。

イギリスで「日本文化の茶道を広めたい」と熱望し、私も大いに期待し、応援しています。六月に「日本に入国できない」と絶望的な手紙が來ました。私は、パールバックの名作「大地」の”王童”の生き方を紹介しました。彼女は、

八月の來日もあきらめ、「時の來るまで一人稽古をしている」と伝えて來ました。半月もかかって届いた手紙で…。

十二月に、いかにもユニオン・ジャックという感じのクリスマスカードが届き「茶の本も読み、一人稽古にも励んでいる」と落ち着いた様子で、私も安心しました。

一月中旬を過ぎて三重緊急警戒宣言が出されました。感染防止に歯止めのかからなくなってしまう今、”どうする日本?” “コロナ二年目を迎え、変異ウイルスまで出て、巣ごもりばかりはごめんです。

そんな中、今年の新春六華苑祭は好天にも恵まれ何よりも会員の皆様の努力と熱意、そして事務局の計画、役員の協力：すべてがひとつになって成功裡に終わることができたと思ひます。

これからは、コロナ感染の広がり、消極的な行動ばかりでなく(国や自治体の要請を遵守する事は勿論ですが) ファイトを持つて、楽しく、人と人とのつながりを大切にして過ごしましょう!!

百年に一度かも知れないと言われている”コロナ禍”を乗り越えましょう。今できることから、始めましょう。(二月執筆)



▲六華苑の一の間を会場に新しい形での月釜を予定する

# 桑名市民芸術文化祭を終えて

## 音楽のフルコース

### 音楽の力を信じて

音楽部門 矢吹百代

(桑名少年少女合唱団)

合唱団が活動を再開して数カ月が経ちました。換気や消毒などの感染拡大防止対策をとった上で、マスクやマウスシールドの着用はもちろん、ソーシャルディスタンスをとれるように数グループに分かれての練習を続けてきました。

今年度は団員全員が揃ってレッスンを受けられる機会がなく、仲間同士の交流や、うしろから聴こえてくる先輩方の歌声に包まれて歌う今までの練習の練習が、できず、苦勞もありました。



▲NTNシティホール大ホール  
今年は例年より広い会場です

でも、お友達と一定の距離をとって歌うことで誰かの声に頼らず、まずは自分でしっかりと音を取って歌おうという個々の意識が高まり、全体のレベル向上に繋がっているようにも感じられます。

そんなコロナ禍の中、11月15日桑名市民芸術文化祭 音楽のフルコースに出演させて頂きました。

受付や会場内でもスタッフ全員がマスクにフェイスシールドを着用。開場時間を調整して列を作らないよう工夫したり、検温、ホール入口もドアを開けて換気をする等、徹底した感染予防対策が行われました。

合唱団の子ども達も全員マウスシールドをつけて演奏。久々のステージ演奏でしたが、いつもと変わらない元気な歌声をホールいっぱい響かせることができました。お客様からは「やっぱりいいね。子ども達の声に癒されたよ」と温かいお言葉を頂き、人前で歌わせて頂ける有難さや貴重さが身に染みた機会だと感じました。

今後も音楽の力を信じ、社会や教育現場と歩調を合わせながらも音楽の歩みは止めず、私達にできることを少しずつでもやっていけたらと思っております。

# 社会文化部門展講演

## 消費者問題を考える

社会文化部門 城田吉孝

(消費文化研究会)

初の試みとして開催した勉強会、紙上版として届けさせて頂きます。

悪質オーナー商法を展開した「ジャパンライフ事件」は、高齢者ら延べ約一万人から計二千億円を違法に集めたとされていることが中日新聞(二〇二〇年十月十日)に特報として掲載された。

この事件は、高額な磁気ネットワークなどの預託商法により、高齢者を中心に契約を伸ばし、社会問題となった。この事件で思い出されるのは、一九八五年六月、金地金の現物まがい商法(ペーパー商法)を展開して高齢者を中心に二千億円を集めた豊田商事事件である。

かつて「悪質商法の源流」として日本経済新聞(二〇一五年一月十八日)の見出し記事にもなったこの事件と共通するのは被害者が高齢者であることだろう。

昨今、国民生活センターには、高齢者の消費者被害の相談が多く寄せられている。高齢者は、「お金」「健康」「孤独」に不安を

もって生活しているが、悪質業者は電話勧誘や訪問販売等で言葉巧みに高齢者の不安を煽り、貯蓄を狙っている。



売り手企業は利益を目的として自社商品・サービスを買ってもらうためにマーケティング活動(需要創造)を展開しているが、そこで生じる消費者問題とは、「市場における売手企業と買手消費者の間における情報格差から生じるもの」である。企業と消費者が相互に信頼できれば問題ないが、企業の商品・サービスにウソがあるとされるとき消費者問題が発生する。この問題を情報格差と買い物弱者の問題として考える必要があるだろう。特に高齢者が高額な商品・サービスを契約する場合、まず信頼できる家族や身近な人と相談することが望ましい。

(東京福祉大学・大学院教授  
マーケティング論専攻)

## コロナ対策！にかける思い

桑名市文化協会

事務局 糸川久美

桑名市民芸術文化祭は、今年度はお茶会等中止の事業もありましたが、芸能の祭典、音楽のフルコース、趣味教養祭（パッチワーク）、美術部門展、社会文化部門展、ダンス、DE、パフォーマンスの六つのイベントを開催しました。

文化協会の会員は、小さな文化団体がほとんどです。各団体のイベントの中止が相次ぎ、ようやく新しいスタイルで活動再開、イベント開催するにもどうしたらよいか戸惑う声がたくさんありました。

市民芸術文化祭はいろいろな分野の会員が参加する発表の場です。ここでまずは感染防止対策の一つの形を実施することが、文化協会としてできることだと考えました。

検温や手指消毒、来場者の連絡先の把握等一連の受付の流れや安心みえるLINEの活用、来場者への注意喚起の表示、三密回避等、工夫検討しました。少しでも感染リスクを下げるよう、安心して演技し、来場者にも楽しんでもらえるよう、スタッフ一丸となつて準備しました。



出演団体からは「参考になった」「久しぶりに舞台に立てて嬉しかった」との声を、来場された市民の方からは「心に沁みた」「出かける機会をありがとう」と喜びの声を頂き、胸が熱くなりました。

一月の新春六華苑祭では、更にコロナ感染拡大が続き状況は厳しく開催中止も検討しましたが、芸術文化の灯を繋ぎたい一心で、感染対策を行い開催しました。文化協会の会員の実施するイベントで役立ててもらえるよう、注意喚起の表示や非接触型体温計の貸出を行います。事務局までご相談ください。

コロナを乗り越えて会員の皆さんが楽しく活動できるよう、芸術文化の喜びがまち全体に広がるよう、応援していきたいと思えます。

## 北勢地域文化団体交流会・報告

桑名市文化協会

副会長 安田治三

新年を迎え久しくなりますが、昨年はコロナ、コロナで大変な年になってしまい、会員の皆様も、その最中での活動は、制限を受けたりで、存分のご活躍はできなかったものと思います。それでも負けずに頑張つて活動している会員さんから元氣や勇気を頂いている次第でした。

会員皆様のご理解とご協力、本当に有難うございました。

さて昨年、表記の各地域団体の交流会を十一月十五日、NTNシティホールで開催致しました。桑名文協はホストとして各地域団体の方々をお招き致しましたので、各地域団体からの活動報告を私なりに纏め報告致します。

一、(一社) 東員町文化協会

コロナ禍影響大、収支会計赤字、総会は書面表決、事業は中止、広報誌「ひばり」遅発行等。

二、(一社) いなべ市芸術文化協会  
コロナ禍三月から八月事業中止、九月からの再開、一月から事業予定、名フィルコンサートは十周年を迎える等。

三、(一社) 四日市市文化協会

総会は書面表決、各事業はコロナ影響でできず、十一月七日か

ら市民芸術文化祭開催、新春交流会中止、代わりに新春懇話会として予定、今後ライブ配信を取り入れた事業を予定、文化協会のチャンネルで配信、広報誌パッションの発行二回、自主事業でキッズ伝統文化体験教室を十二月まで九種目行う、市民大講講座への参加では「墨の魅力」好評、ホームページ更新もこまめに、以上やれる事を少しずつ対策を行いながらやる等。

四、菰野町芸術文化協会

来年三十周年を迎える。コロナ影響で会員数減少、行事はほぼ中止、二月十四日の歌謡部門発表会の開催を検討中、三月の邦楽発表会開催方向、秋の文化祭はYouTubeで、スライドショーの形でネット開催、芸文だより十月発行から、新聞折込で配布等。

五、桑名市文化協会

当会もコロナ禍で総会書面表決など事業も創意工夫しつつ縮小、「文協」印刷カラー化好評など報告しました。

以上の通りです。



▲オンラインの活用なども話題になりました

# 新春六華苑祭を終えて

## キッズダンス

芸術Ⅲ部門 伊藤好子

(伊藤好子&ダンシングステップ)

一月十六日・十七日二日間にわたって第十七回新春を寿ぐ「新春六華苑祭」が催されました。和館では和楽器の音色に癒され艶やかな着物姿、正装された姿で邦楽の演奏会、番蔵棟では美術部門の方々の力作が並び目を楽しませ、芝生広場では雅楽、キッズダンスが催されました。



▲感染予防を逆手にとり「キッツ」の演出「そのマスクがほしい〜」とたくさん声

毎年お天気が気になる芝生広場の発表ですがお正月らしい楽曲の選曲、庭園の樹木や建物に映えるよう防寒にも考慮した衣装で可愛い元気に踊りました。

歴史ある文化遺産である六華苑での初舞はとても意味深い事だと感じております。

文化協会会員が会しての催しは異なった部門の皆さんとのコミュニケーションにもつながっていくと思います。

最後に二日間お世話して頂いた職員の皆様、企画応援ご指導頂いた文化協会役員の方々にお礼申し上げます。

# 新春を雅びて

芸能Ⅰ部門

清野琴誉

(桑琴会)

六華苑祭は私達にとって、新年幕開けの初演奏となり、重要文化財である六華苑で弾くのを楽しみに又、誇りにしてきました。

よもや昨年の六華苑祭終了直後からコロナ一辺倒の波乱の一年になろうとは思ってもみませんでした。演奏会の中止どころか、練習場所の閉鎖や自粛で練習さえままならず、その中大きな部屋に変更したり、夏はマスクで汗だく、冬は上着のままと工夫を凝らしながら練習を続け、令和三年一月十七日、その日を目ざしてきました。

年末年始は開催されるのか、不安の中、当日は予報どおりの寒い日となりましたが、芝生広場ではキッズダンス、番蔵棟では美術展、和館では琴・尺八・舞踊と私達桑琴会の大正琴が金屏風の前、華やかに催されました。

巷では「リモート」やら「オンライン」やらカタカナが並んでいます。どの楽器、どのグループでもそうでしょうか、一人弾きでも出来ず。でも、「人とのふれあい」なくして、本当に文化と言えるのかどうか…。

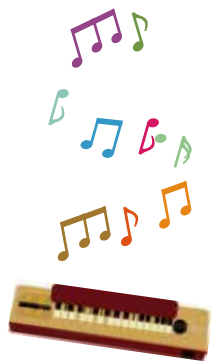
チームワークで音を作ってきた

私達にとっては、厳しい一年でしたが、「明けない夜はない」と言われているように、マスクなしで思いつ切り演奏ができる日に向けて、日々練習に励んでまいりたいと思います。

最後に逆風の中、六華苑祭を開催するにあたっては、主催又、関係者の方々の英断と準備のご苦労が多々あった事と思います。感謝を申し上げて、筆をおく事と致します。ありがとうございました。



▲こんな時だからこそ明るい曲に願いを込めて



# 令和3年度月釜・華道展日程表

開催時間 月 釜 午前10時～午後3時30分  
 華道展 土曜日 午後1時～午後5時  
 日曜日 午前10時～午後4時

開催場所 六華苑 和館一の間(月釜) 会議室(華道展)

呈茶券 前売券 9000円(9月より1,0000円)  
 (六華苑入苑料込・茶道各流派師範宅・六華苑で販売)

当日券 6000円(9月より7000円)  
 (六華苑入苑料4600円別)

◆コロナ対策を行います。ご協力をお願いいたします。  
 ◆新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、変更・中止になることがあります。  
 ◆最新の情報は、桑名市文化協会ホームページをご確認ください。  
 ◆お問い合わせ 桑名市文化協会事務局  
 (桑名市ブランド推進課内 TEL 0594-24-1361)

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
令和3年 5月15日(土)	茶道裏千家	石田流
5月16日(日)	茶道裏千家	石田流
6月19日(土)	表千家流	華道家元池坊
6月20日(日)	表千家流	華道家元池坊
9月18日(土)	茶道裏千家	竹真流
9月19日(日)	茶道裏千家	竹真流
10月17日(日)	遠州流茶道	休会
令和4年 2月19日(土)	遠州流茶道	小原流
2月20日(日)	茶道裏千家	小原流
3月19日(土)	遠州流茶道	草月流
3月20日(日)	遠州流茶道	草月流

## 令和3年度 桑名市文化協会 育成補助金募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して、補助金を交付します。令和3年度の育成補助金を申請される方を募集いたします。

### ○補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、令和3年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で、令和元年度・令和2年度に補助を受けていない会員。

### ○補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

### ○応募の方法

文化協会事務局から送付された申請書に記入し、同事務局へ提出申請する。書式は文化協会ホームページよりダウンロードすることもできる。

### ○応募受付期間

令和3年3月1日(月)～  
 令和3年3月31日(水)  
 (令和3年4月1日～令和4年3月31日までの実施事業に限る)

※令和2年度募集より桑名市文化協会育成補助金要綱を、令和3年度より運用規定・Q&Aを一部改定しました。

## 第29回 定期総会のご案内

〈日時〉 令和3年5月16日(日)

午前10時から

(受付は午前9時30分から)

〈会場〉 くわなメディアライヴ

多目的ホール

\*各部門から代議員の選出をしていただきます。

## 令和2年度

### 新入会員の紹介(敬称略)

(3月1日現在までに入会の会員)

美術部門	個人会員	黒田 史夫
趣味教養部門	個人会員	清水 禎子
美術部門	個人会員	菱田 恭裕
音楽部門	個人会員	西村 治生
美術部門	個人会員	佐橋 早苗

## 新入会員大歓迎♪

文化活動を行っている団体さん、個人の方、文化事業に興味のある方、一緒に桑名市の文化芸術活動を盛り上げていきませんか？  
 お問い合わせはお気軽に♪

## お問い合わせ

桑名市文化協会事務局  
 (桑名市ブランド推進課内)  
 TEL 0594-24-1361  
 ホームページ  
<http://bunkyo-kuwana.jp>



# コロナ禍 私たちの活動



## ふまれても雑草のように

美術部門 深貝武夫

(ぐるうぶ雑創)

ぐるうぶ雑創は一昨年代表の吉田敏男先生が亡くなりました。創立以来三十八年の屋台骨を支えて下さいました巨星が墜つて、この先、どのように舵取りをしていくか多難な時を迎えております。

令和二年八月の吉田先生の遺作展を会員一同必ず実現するという考えのもと、コロナ禍でありましたが強い決意をもって開催いたしました。マスクをして来館、手をアルコール消毒してから、三密を避けて鑑賞していただくことになりました。主催者側もなるべく密にならないように説明しながらご案内申し上げます。最終的に四二



七名の方々にご来場いただき、苦勞の連続でありましたが、無事達成出来たことに会員一同が安堵いたしました。

長老の方々が亡くなったり、退会されたりで、もう、これでぐるうぶ雑創の存続することは難しいと思っておりましたが、「一生やりたい」という方が出てまいりまして続けようかなと思っております。

今年八月の四十回記念展を無事終了させようと会員一同が力を合わせて邁進してまいります。

元々、ジャンルを異にした部門を纏めていくことは至難の技、雑創も最初から順風満帆ではなかったものですから、少しその道に心得がある方で結構ですから気軽に会場芸術に挑戦されたらいかがでしょうか。

「雑創」の理念のように、ふまれても、ふまれても、次から次へと新しい芽を萌し続ける雑草のように。

「コロナに負けるな美術部門」皆さんの期待に応えたいと思っています。



## 挑戦！野外公演！私たちは表現をあきらめない

演劇部門 相原千景

(演劇集団Cブレンド)

2020年3月、新型コロナウイルスの影響が深刻化し、緊急事態宣言が発令され、3月公演が中止せざるをえなくなったとき、私たちはコロナとの戦いが長期化することを直感しました。そして、予定されていた5月、6月、7月、8月の公演を全て中止にしました。



しかし、私

ち市民文化は、コロナにより動くことができず衰退するものではない。安全面と両立させての活動を模索しよう。私たちの試行錯誤の挑戦が始まりました。まず、いったん感染拡大が収束をみせるのは秋だ、と考えました。しかしまだ劇場上演には不安がある。三密回避の野外公演だ。九華公園内にある野外ステージがすぐさま思い浮かびました。私たちは、3月から、秋の野外公演に向けて動き始めたのです。

長らく眠っていた野外ステージでの公演には、課題が山積みでし

た。桑名市ブランド推進課様には、企画当初から私たちの思いにご賛同いただき、細やかにご支援いただきました。そして、文化協会の皆様、アセットマネジメント課様、周辺自治会の皆様、照明音響電気関係の民間業者様にも、大変親身になっていただきました。当日は、いつも来てくださるお客様、桑名演劇協会や地元の演劇仲間の皆様がたくさんご来場ください、口々に温かいお声をくださいました。そして、上演後は、地元新聞、テレビ局など、コロナ禍における表現への挑戦として、私たちの思いを伝えてくださいました。私たちは、この公演を通じて改めて、たくさんの方々のご支援あつてこそ活動できているのだと再確認でき、それが我々にとっての宝物だと実感しました。

冬になり、予測通りに第3波がやってきて、それは全国的に自粛生活をしてきた第1波の頃をしのご勢いです。逼迫する医療現場の様子を報道で知るたび、深く尊敬、感謝し、我々には何ができるか深く考えます。私たちCブレンドは、再び対面活動を自粛しようと決めました。健康安全と文化振興、両立する方法は多様にあると思うのです。心身ともに健やかにあるように、我々演劇人ができること……慌てず、長期的目線で、向き合い続けていきたいと思

## リモートで繋ぐ きものの楽しみ

趣味教養部門 内田敬子

(装賀きもの学院)

十一月十五日は「きものの日」。  
全国各地のきものに関する企業団体や、きもの学院など事業所を擁する和装団体が、毎年全国いっせいきもの教室を各地で盛大に展開しています。しかし、昨年一月から新型コロナウイルスが確認され、夏のゆかた会、秋の文化祭も中止になりました。(一社装賀きもの学院では令和二年十一月一日に全国30カ所の会場で桑名校は、はまぐりプラザとスター21の二会場をオンラインで繋いでリモートで、きもの着方講習会を開催いたしました。今回初めての試みのリモート講習会、まずは、ネット環境が整いプロジェクターを使ってスクリーンに映す事が出来る会場を選び。私達は、プロジェクターとPCの接続方法もわからず、携帯で検索して調べたり学院本部へ講習に行ったり、リハーサルも数回行いました。その時に、プラザの館長、PCに詳しい地元の方、町の電気屋さん、たくさんの方に  
お世話になり感謝しております。



広報宣伝は、チラシの配布、口コミで広めようとしましたが感染対策に伴い人数制限を設け、大勢に声をかけることは控えました。本番当日は、一時間半という限られた時間ではありましたが、きもの着方や七五三参りの作法等をリモートで学んで頂きました。  
受講者の方から、スクリーンを通して普段交流しない大勢の皆さんとご一緒できるのもリモートの醍醐味であると感想をいただきました。コロナ禍でもイベントを行うことができました。工夫して和文の良さを広め、この貴重な体験で新しい事に挑戦する思考は最後に繋げていきたいと思えます。

## ピンチをチャンスに

芸能I部門 尾形元子

(琴きさらら)

昨年はコロナに世界中が苦しめられた大変な年でした。日本も感染者数の増減に一喜一憂の毎日、本来ならすがすがしい気持ちで新年を迎えたのでしようが、いまだ大混乱のさなかにあります。

昨年の桑名は、幸い感染者は少なく比較的に安全でした。それでも観客を入れてのイベントは中止となったり、サークル活動は思うように出来ない状態が続ぎ、当たり前の生活が当たり前に送れない不自由さを痛感した年でもありません。

「琴きさらら」も影響を受けて十月の芸術文化祭は感染の心配から不参加、また新春六華苑祭も少数での参加となりました。

私達は年に数回の演奏会出演や老人施設、病院等へのボランティア訪問を行っています。特にボランティア訪問では、懐かしい曲に口ずさんで下さったり、琴の音色が心の琴線に触れるのでしょうか、涙ぐまれる方、また名残惜しそうに手を振られる方。そのような姿に接する度に、ボランティア



▲コロナ前の様子 ボランティア訪問に再び行ける日を待って…

活動の意義を感じていました。しかしこの状況下では依頼もなく、人と人との触れ合いが失われていくことが残念です。

でも悲観することばかりでもないようです。今までのような演奏会に追われた練習から、堀先生の意向で今がチャンスとばかり基礎から学び直しましょうと「六段」「八段」「松竹梅」などの古曲を、じっくりとご指導して頂ける機会を得ています。この危機の中で安心して活動が出来る日が来るまで「待つ」ということの中に、今出来ることを見い出せるものがあるのではないのでしょうか。  
ピンチをチャンスに変えましょう!

# 文協文芸

## 詩 〈現代詩やまぶき〉

### 怒り 岡本妙子

いつもなら  
雪雲を眺めて  
寒さなんかには負けないよと叫び  
雪だるまを作り  
集めておいた南天の実を手に  
若者に負けてなるものかと  
庭に夢を飾るはずだった

コロナに足元を蹴られてから  
とじこもりの生活：  
マスク、消毒液、手袋を玄関に  
宅急便を待つ暮らし  
ありがたさが いつもとちがう

こんな時なのに  
ほんとうに「ありがとうございます」  
きつと地球が怒ったのだ  
山を削り  
鉄の杭を打ち込み  
コンクリートで固め  
夜空の星にまで  
人間がしのびこんで  
声を失った地球が  
今、思いきり怒っている  
どうか、どうか  
ゆるして下さい

### 青空 堀川孝子

リビングの床が汚れてきている  
捜しものが見つかからないように  
すっきりしない  
久しぶりに雑巾がけをする

六年生の冬だった  
木造校舎の廊下を拭いていて  
手にトゲが刺さった  
そこがいつまでも治らず  
じくじくと膿が出た

そんな時 父が入院  
胃を半分切除した後  
—— 女子供に出来ることではない  
早春の水田に入って畦塗りを  
していた

コバルトを当てた胸は黒く焦げ  
ガーゼを取り替えるたびに顔をゆ  
がめた父  
—— 痛い痛い飛んで行け  
疲れた顔を拭っては  
軽口で父を笑わせていた母

入退院を繰り返した後  
父は亡くなった  
這いつくばって拭き続けてくれた  
道を  
遺された者たちは  
明日に向かって歩くことが出来た

父母の影が  
ぼんやりと浮かんでいる  
空を  
雑巾で拭く  
きゅつと絞って何度も拭いた

真つ青な空に  
くつきりとよみがえった遠い日々



### 約束 安田治三

夕焼けの真つ赤な空

沈む太陽を追いかけて  
白い飛行機雲は矢のように  
一直線に伸びている

かつて少年は藁や土の田んぼで  
風音もなく揺らぐ一面金色の中に  
ザクツ ザクツ ザクツと  
容赦なく稲を刈る音だけを聞いて

父母の繰り返す 米つきバツタ  
のような働きが  
果てしなく広い田んぼの豊穡が  
苦しみだけに思えて

子犬のように小さな心臓は

ドキドキと高鳴った

幼い弟は藁に埋もれて  
チヨコンと何も知らずに座っている

父さん母さんを楽にしてやろう

大きくなって偉くなって  
早く楽にしてやろう

大空に向かつて約束をした  
白い雲はさざ波が止まったように  
浮かんでいた

「あの雲の上に死んだ爺ちゃんや  
兄ちゃんがいる」  
母さんはそう言っていた

あれから何十年

父は何も言わずに雲の上へ  
逝ってしまった

それから毎日母は仏壇の前で  
歪んだ指と皺だらけの手に  
数珠をかけ か細い身体で  
拝んでいる

いつか誓ったあの大空

約束を果たせたのでしょうか

飛行機雲は雲よりも高く  
北へ向かって遙かシベリアの  
最果てへ消えて行った



## 俳句 〈俳句を学ぶ会〉

### 巣ごもりの記

竹村 一雄

ひよんなことから始めた俳句、ここはやはり歳時記がないと始まらないので買った。

当然ながら「新型コロナウイルス」はない。「インフルエンザ」、「ウイルス」もなし。近いものを探すと「はやりかぜ」がある。もちろん季節は冬。いつの日か掲載される日が来るか。

歳時記や新型コロナウイルスの季は如何に

春休みも、夏休みも、関西に住む孫たちに会えず。ビデオ通話で「じいじに会いたいな。」といつてはくれるが、じじばばに比べると、孫たちは、特に会えなくて落ち込んでいる様子はない。それはそれで喜ばしいことであるが。

夏休みジジババのために  
あると知る

好きなコンサートにも行けず、ライブ・コンサートのストリーミング視聴というのを同好の人と一緒に見る。演奏者と空気の共有ができないのが残念であるが、

ストリーミングのチェロの音  
届け天の川

昨年春、学校が臨時休校になった時期は、最近引越してきた子、近所の家にコロナ疎開してきた子たちが友達になってくれて、ボール遊びや公園でかくれんぼをした。そのおかげで、登下校のついでに老人の“安否確認”に立ち寄ってくれるようになった。

昨年末の大雪の日の朝のこと、  
登校の子の置き土産雪だるま



年明け、赤須賀漁港の近くでふうわりした『しらうおどんぶり』を食べる。春はすぐそこまで来ている。

しらうおの競り大寒の陽のなかで  
アマビエと蘇民将来に期待して

### 子年春夏秋冬

安田 治三

あかつきや鶯の声里山に  
日輪の勤め終わるか西山へ  
軒下に二羽がいこう燕かな

若燕せわし行き交う巣作りか  
あちこちに田畑賑わう農家人

鯉のぼり青に緑に五月かな  
茶碗に林におう筍や

五月空童よ童大きくなあれ  
コロナ禍に今年も咲いた桜かな

水ぬるむ苗代の田に燕舞う  
黒塀にほのかな明り桜花

散りかけてなごり惜しむか櫻花  
夜半の君揺れて淋しや薄紅の

桜咲く村に行き交う人の声  
秋雨あと落葉重し竹ぼうき

紅の山も水面も錦絵に

山朱く萌えても我は松のこけ

柘植の実を食らって嬉し知らぬ鳥

玉砂利夕陽を受けて人の跡

秋の空何を描くか白い雲

打ち水で礼にはにかむ坊主の子

炎天下水かけたいと何もかも

今時も踏んで楽しや霜柱

霜柱小石を浮かせ力持ち

雨上がり朝陽に続く黄金の道

雨後のあさ日輪に向かい黄金の道

枯れ木も石も濡れて輝く冬景色

雪降りの障子はなお真白きや

門出ればコロナの敵何処にも



# 桑名地名あれこれ(24)

く熊口(くまくち)郷

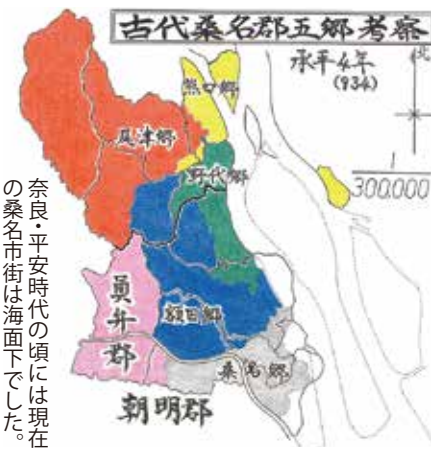
社会文化部門  
(個人会員)

大河内 浩

平安時代承平年間(九三一〜九三八)に撰進の倭名類聚鈔(和名抄)という本に、桑名群五郷として、野代・桑名・額田・尾津・熊口の五つの地区があつたことが記載されています。このうち熊口郷は万葉仮名で久未久知とありますが、現在では同名の地名や神社名などが伝わっており、市販の地名辞典では深谷あたりではないかという記述もあります。

これについて、徳川水戸家が明暦二年(一六五七)から蜿蜒と二百五十年に亘って編纂を続け明治三九年(一九〇六)に完稿させた大日本史全三九七巻のうち第二九〇巻、志第四七、国郡六の桑名郡記事の中で「野代・郷名今尚ほ存す属村八郡の中央に在り、桑名・今の桑名郷野代の東南に在り、額田・郷名今在す属村十郡の西南に在り、尾津・今の尾津多度二郷属村十即ち古の郷地なり、熊口・郷名今在す属村八尾津の東に在り」とあります。古代桑名郡は五郷があり、中央は野代、東南に桑名、西南に額田、西北に尾津、東北が熊口であつたことがわかります。

もと桑名藩士江間政発(一八五七〜一九一六)が明治八年(一八七五)に著した桑名郡志草稿には「熊口・其地今考ル処ナシ」とあるので既に不詳ですが、大日本史記事が書かれた江戸時代中ごろにはまだ伝わっていたようです。残念ながら大日本史には村々の名が記載されていませんが、明治三六年(一九〇三)郵岡良弼著の日本地理志料ほかには記載がありこれらを総合すると古代熊口郷は現在の多度北地区七郷輪中から、明治の初めに岐阜県へ編入された桑名郡金廻輪中や、愛知県へ編入された桑名郡五明輪中あたりが相当するようです。



ご賛助いただいております  
特別会員の皆様 3月1日現在  
(五十音順)

- アートスペース美園様
- 医療法人桑名病院様
- 医療法人尚徳会 ヨナハ総合病院様
- 医療法人普照会 もりえい病院様
- 医療法人誠会 山崎病院様
- お菓子処「和」様
- カネソウ株式会社様
- 株式会社朝日精工様
- 株式会社歌行燈様
- 株式会社グランビル様
- 株式会社山水平園様
- 株式会社水谷精機工作所様
- 株式会社レイ・ステージ桑名様
- 木村洋子様
- 桑名シティホテル様
- 桑名三重信用金庫様
- 在日本大韓民国国民団三重県桑名支部様
- 中央不動産株式会社様
- 辻内鑄物鉄工株式会社様
- 兎月堂様
- 花新江場中店様
- 花乃江場中店様
- 花精工株式会社様
- 光精工株式会社様
- ヒルカワ金属株式会社様
- 三重精機株式会社様
- 森田フードシステム株式会社様
- 有限会社茶茂様

日頃のご協力に對しまして、  
深くお礼申し上げます。

## 編集後記

この桑名文協49号が会員の皆様に届く頃は桜前線の情報が聞かれることと思われませんが、本年は残念ながらコロナ禍においてお花見ができるのかどうか案じられます。

最近の社会環境はコロナ禍にもまして世知辛いゆとりのない生活が多くなって、人間関係も希薄になってきているような気がします。そんな中、昨年より文協の茶華香道部門の広報委員として参加させて頂いた皆様の皆様が趣味の世界で生き生きと本当に楽しまれており、自分もその中に入れていただき、ほっと安らぎをいただき、またパワーをいただいで幸せを感じております。

4月の新年度より桑名文協の催しの計画が種々ありますが、今年こそ順調に開催されますことを願ってやみません。

会員の皆様におかれましてはいろいろと環境の変化もあるかと思われませんが、文化の持つ力をもって皆で頑張りましょう。コロナ退散!!  
(小川 与松)

- |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                 |                  |                  |                  |                  |                 |                   |                   |                   |                   |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 広報担当副会長<br>丹羽 宗俊 | 広報担当副会長<br>安田 治三 | 委員 文学部門<br>竹村 一雄 | 委員 文学部門<br>小島 陽三 | 委員 文学部門<br>藤井 昌弘 | 委員 文学部門<br>村瀬 昌子 | 委員 文学部門<br>森 好子 | 委員 文学部門<br>伊藤 好子 | 委員 文学部門<br>相原 千景 | 委員 文学部門<br>小川 与松 | 委員 文学部門<br>大河内 浩 | 委員 文学部門<br>加藤 誠 | 委員 文学部門<br>趣味教養部門 | 委員 文学部門<br>茶華香道部門 | 委員 文学部門<br>社会文化部門 | 委員 文学部門<br>趣味教養部門 |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|